



「自分たちの歌を聞いて、元気になって欲しい」と話すふたり。震災後にふたりで見た音楽ライブがきっかけで、音楽活動をはじめました。初舞台は高校2年の秋、文化祭のステージ。「緊張しました」と当時を振り返るふたりも、今は社会人。幼稚園から高校まで、部活動も一緒だったふたりがそれぞれの仕事に取り組み毎日ですが、ふたりを繋ぐものは、「歌うこと」。「今は、仕事中心の生活ですが、これからも歌っていききたい。もっと練習をしてまた聞きたいと思われないです」。



つくってたべよう

「さいもち」

(材料)

- | | |
|--------------|--------------|
| ・くるみ …… 200g | ・しょう油 …… 92g |
| ・とうふ …… 300g | ・もち …… 適量 |
| ・砂糖 …… 100g | |

(作り方)

- ①くるみをフライパンで中火でから煎りする。
- ②10分くらいおいて冷やしたら、ミキサーにくるみ、とうふ、砂糖、しょう油を入れて混ぜる。
- ③もちに絡めて出来上がり。

ポイント

- お好みでピーナッツを入れてもOK！
- ほうれん草や人参と和えても美味しいです。

協力：かーちゃんの力・プロジェクト協議会

こころのぽけっと

3.11の20年後は？

1月17日、阪神大震災から丁度20年ということで新聞もテレビも多く追悼記事や番組を組んでいたようです。

20年後の復旧の様子、一方で心の復興はまだ終わっていないなどの報道も多かったようです。六千人以上の命を瞬間にして奪ってしまった大震災でしたから20年というひとつの節目に当たって、大きく取り上げられることは当然のことでありましよう。

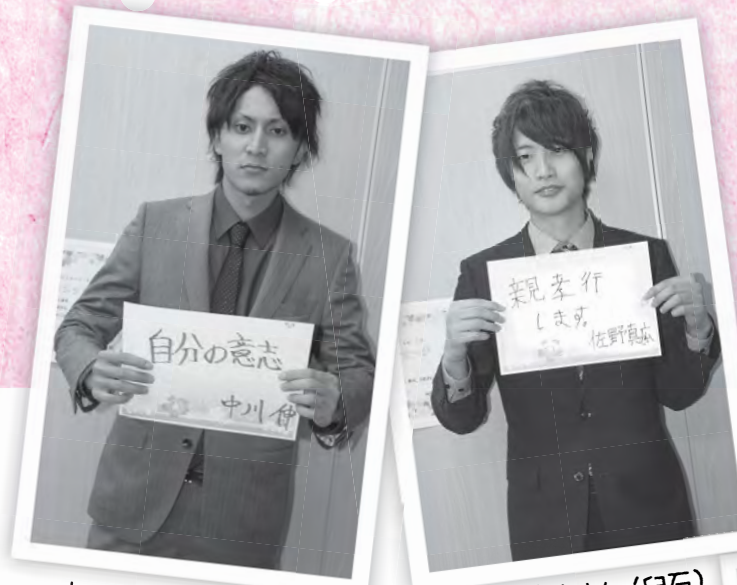
そこでふと思ったことは、私たちの2011年3月11日の20年後の報道はどのようなものになっているのであろうかということです。2万人を超える死者の大震災ですからさらに大きく取り上げられることは容易に想像が出来ます。

ただ、私たちが辛い避難生活をいられている原発事故に対しての報道はどうなのだろうとの興味が大変つのとこです。20年後の私はかなりの年ですから、可能性としては0ではないが、その記事を見ることの可能性は限りなく薄いゆえ、報道の内容にいつそう興味がわいてくるというものです。出来れば生きていて見てみたいものですが、ダメなら宅配便で「あの世」に届けてもらえたらいいですね。

1月17日にしろ、3月11日にしろ共通していることのひとつは、平凡な毎日の生活が「何にも代えがたい大切なもの」ということ、多くの方が分かったということでしょう。そしてもうひとつは、人と人とのつながり、人の心の温かさ、感謝の気持ち、命の大切さ等でありましよう。新聞記事によると阪神大震災で家族を亡くした女性が、今、母親になつて、生まれてきた子どもに願うことは「他人が困っていたら手を差し伸べられる大人に是非なつて欲しい」との切なる願いだそうです。

他を思いやる心、お互い様の心あるいは、までの心、そんなことが20年後に大きく報道されていけばいいなあと思います。なんとか見たいものです。皆で長生きすることにしましよう。

平成27年1月19日 飯館村長 菅野 典雄



中川 伸さん (宮内)

佐野 真広さん (臼石)



菅野 沙英蘭さん (佐須) 和田 麻美さん (八木沢・芦原)



高橋 宏佳さん (長泥)



菅野 真奈美さん (比曽)



北里憲吾さん (草野)



佐藤 貴哉さん (伊丹沢)



佐藤 友美さん (上飯桶)

今年の新成人が生まれた年の村の話題 (平成6年4月～平成7年3月)

- ◇宿泊体験館きりがオープン(7月)
- ◇ふくしま駅伝村の部 3連覇(11月)
- ◇村営書店「ほんの森いいたて」がオープン(2月)